

湖都通信

看護学科版

04

Coto Tsushin
[Nursing subject Version]

2018. 3. 1

滋賀医科大学同窓会「湖医会」



CONTENTS

会長交代あいさつ	渡辺一良・永田 啓	2
教授就任	佐々木雅也・相見良成	6
会員からのたより	金子節志・星 智子・松永暢子・船富奈々	8
海外からのメッセージ	市川瑞希	12
同期会 卒後10年(10期生)	田村沙緒理・堀 麻紀	13
看護学科交流懇談会	高谷有理・門田雅樹・市山 遥	14
支部会 滋賀支部	山下 敬・横井晴華・岡田美沙	16
西医体・西医療体	女子テニス部・女子バレーボール部・水泳部・合気道部・空手道部	18
事務局から	総会議事録 ほか	23

湖医会会長交代にあたり



滋賀医科大学同窓会「湖医会」前会長
渡辺 一良 (医2期)

長寿全国No.1に貢献する

滋賀医大パワー

このたび湖医会会長を退くにあたり、ご挨拶を申し上げたいと思います。

本学は湖国滋賀県の医療水準を高めてほしいという県民の熱き希いと、一県一医大政策に基づき、昭和49年(1974年)に開学の運びとなりました。当時は旭川医大、浜松医大等とともに新設医大と呼ばれたのですが昭和56年、第1期生が卒業して以来、まもなく大学創立50周年を迎えようとしています。この間に医学科3,641名、看護学科1,374名の卒業生を輩出し、そのおよそ1/3は滋賀県に根を張って湖国の医療を支え、またある者は国内国外に羽ば

たいて医学、看護学の研究・教育・臨床に力を注いできています。

同窓会「湖医会」はそんな卒業生がいつでも連絡を取り合いお互いの力になれるように、また先輩から後輩への支援もできるようにとの考えのもと、会員の縦横を緩く束ねつつ、手探り、手弁当で歩んできました。手探りと申しますのは…約30年前といえば新研修制度施行前で、研修医となれば毎日病院に泊り込むような暮らしが続いたものです。卒業生が出てからの数年間は、全ての湖医会会員がそのように忙しい盛りでした。当然、湖医会を支えるような余裕は

誰にもなく、各卒年の会員情報すら把握できない状況でした。これを憂いたのが当時の佐野晴洋学長(故人)で、金子均(7期、現副会長)を通じて中島滋美(2期、前会長)と私を含む数名に呼びかけ、会の蘇生を図ろうということになったのでした。

中島は会長職を引き受け、かなりの労力を注ぎ込んで湖医会の再生を開始しました。永田(2期)、埜田(3期)、相見(5期)、黒川(6期)、金子(7期)、乾(8期)、茶野(10期)、田中(16期)などの諸君が、これまた手弁当で会長をサポートしました。こうした活動により佐野学長の理解を得て、学内に「湖医会事務局」を確保することができることになりました。中島はそこへ専属の事務職員を配置しました。彼女達はとても活発で、事務作業はもちろん、ときには学生の相談窓口になり、ときには湖医会の活動アイデアを捻り出し、そして湖医会主催の卒業祝賀会が迫ってくれば会場の紅白の幕張り作業までこなしてくれました。現在では新たに奥野正元大学職員がその豊富な事務経験を活かして、湖医会を裏から支えてくれています。こうして湖医会は多岐にわたる事業を維持、拡大しながら今日まで継続してこられたというわけなのです。

さて、暫くすると中島会長が米国留学(ピロリ菌研究)に旅立つこととなり、同期の私が会長代行を勤めたのが運の尽き、爾来26年間にわたる会長業(行)が続くことになったのでした。

この間を振り返るとじつに様々なことがありました。関東会をはじめ、鹿児島、大阪、奈良の各地に、そしてお膝元である滋賀にも湖医会の支部組織が草の根的に立ち上がりました。本学卒業生が各地で再び集える組織ができたということは、卒業生はもちろん、後輩

にとっても大変貴重なことでした。

教育、福祉・医療そして研究の各分野で地道に努力し、その業績顕著な卒業生を顕彰し称える湖医会賞、これは小澤和惠学長からそのアイデアをいただき、創設したものです。その選考、審査にあたっては、本学名誉教授の先生方にも審査委員に加わっていただき、熱心に議論しながら審査を行いました。毎年の選考会議に出るたびに、「我らが同門にこんな素晴らしい活動をしている会員がいるのか」と驚くばかりでした。誇らしい思いと同時に、我が身を振り返る良き反省の機会でもありました。

湖医会も年々成長してきたことから、大学では湖医会を重視する方向性が採用され、とくに吉川隆一学長の代からは大学の各種会議に会長や副



会長が委員として参加を要請されるようになりました。たとえば本学の学外有識者会議、滋賀医学国際協力会、大学の法人化以降では経営協議会、学長選考会議、等々です。これらの会議に出席する際には、大学の真の発

展のために、そして学内会員(教員、学生)の処遇改善や充実した学生生活に繋がるように、という純粋な思いをもって参加し、発言してきたという自負があります。

脳外科医としての手術日程を調整しつつ複数の会議に出席するという事はなかなか大変でしたが、役得もありました。それは代々の学長、副学長をはじめ錚々たる外部委員の方々…元銀行頭取、元県副知事、元学長、元商工会議所女性会会長など、通常ではなかなか懇意になりにくい“きわめびと”の方々とお付き合いをさせていただいたことです。自分にとってはとても大きな財産となりました。

2年に一度の湖医会役員の改選にあたっては、当然その都度、新会長候補を募ってきました。卒後10～15年目くらいになると学内会員も講師、助教授(当時の呼称)に昇進し、成長の芽を出してきていました。彼らにはしかし、働き盛りで多忙であることに加えて、ときには大学と対立する可能性もあった湖医会の幹部には名を連ねにくいという微妙な側面もありました。そんな事情もあって、開学50周年が目前となった今日までの長きにわたり会長を続けることになったという次第です。

開学50周年に至るこの節目を大事に考えて、同窓会館、あるいは学生のクラ

ブハウスなど記念建造物を建てようという動議も提案されました。湖医会員、学生、そして教員・職員のためになり、かつ大学の象徴となるような求心力のある記念碑的な計画が求められ、これを実現するにはひろく賛同される理念と、資金集めが重要です。そのためには誰もが認める妥当な発起人が必要でした。学内に眼を転ずると既に本学出身の教授が18名も誕生していました。この中から学長補佐職にあり、押しも押されもせぬ(?)立場にあった永田啓教授(2期生)が重い腰を上げてくれ、昨秋の総会に於いてようやく新会長として選出される運びとなりました。もちろん50周年記念行事に向けた動きばかりではありません。26年間の悪弊(?)はこれを払拭し、新たな息吹とともに「湖医会」運営を目指すべく、既に新体制が動き始めています。これからは永田新会長のもと、同窓会としての新たなページを開くために皆さんとともに歩んでいきたいと思っています。

滋賀医大パワーはその総合力でもって、**湖国滋賀の男性長寿全国No.1**に貢献してきたと言えるのではないかと…冒頭に掲げた新聞の見出しを見ながら、来し方を振り返りつつ、そんな感慨にふけたのでした。

滋賀医大よ、永遠なれ!

(文中一部敬称略)





会長に就任しました

渡辺会長が20余年にわたって頑張っておられた後を受けて、湖医会の会長に就任しました。

私には82人の先輩と、91人の同級生、そして看護学科を含めて4,842人の後輩がいます。

滋賀医科大学も、昭和49年(1974年)にスタートして以来40年を超え、2024年には開学50周年を迎えることになります。

これまで、同窓会「湖医会」は、会員の親睦を図ったり、同期が10年毎に集まって親交を深める同期会をマネジメントしたり、奨学金が必要だけれど国や大学が出す要件に当てはまらない人に援助したり、大学の情報や同窓生の情報を湖都通信やメールマガジン・ホームページなどを使って皆さんに伝えたりといった活動を行ってきました。湖医会をスタートして、当初は会員も役員も若く、自分の事で精一杯な時期が続いたため、無理のない形で運営してきました。

こうした中で時は流れ、気がつけば1期生で最も若い現役生がもう60歳を超える時期になってきました。まさに時間は飛ぶように過ぎている感じがします。湖医会の構成メンバーも、さまざまな大学の教授や准教授になったり、病院長や副病院長をつとめたり、自分の城を築いた方々も多くなってきました。大学からも「もの言う同窓会」として滋賀医科大学により積極的にかかわってほしい、という要望も出てきています。

私の役割は、湖医会にメンバーがたくさんかかわって

い、自由闊達に意見を言い合える機会を増やしていったり、大学に対して物言う同窓会になれるように、組織や年間行事などを見直して行って、体制を整えてゆくことと思っています。

湖医会では、滋賀支部会・湖医会教授懇談会・湖医会病院長会議など、みんなで集まっているいろんな話をざっくばらんにできる会を増やしてきました。それぞれお互いの立場や現状を理解したり、意見を言い合ったりできる環境が少しずつ整ってきています。

湖医会の構成員はとても忙しく、多くの時間を湖医会の活動に割くことは難しいため、湖医会の中に総務・組織・渉外・広報・財務・行事企画・学生支援・学術研究・看護といった部門を作って、少しずつ時間をとってもらい、常任幹事に分担して活動してもらおうと考えています。また、皆さんが参加できる総会をめざして、今まで若鮎祭の時期に行っていた総会を8月の滋賀支部会の時に行うなど、いろいろと試行錯誤しながら行ってゆき、やってみながら修正するという形で、少しずつ体制を整備して行きたいと思っています。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

湖医会をにぎやかに、学生時代の気楽さを。



滋賀医科大学同窓会「湖医会」会長

永田 啓 (医2期)
(ながた さとる)



新役員 任期:3年(2017.11.1~2020.10.31)

- | | | |
|-------|--------------|--------------|
| ◇会長 | 永田 啓 (医2期) | |
| ◇副会長 | 蔦本 尚慶 (医2期) | |
| | 相見 良成 (医5期) | |
| | 金子 均 (医7期) | |
| ◇常任幹事 | 中島 滋美 (医2期) | 藤原 睦子 (医14期) |
| | 小島 秀人 (医3期) | 田中 裕之 (医16期) |
| | 埴田 和史 (医3期) | 寺島 智也 (医16期) |
| | 木築野百合 (医5期) | 森野勝太郎 (医16期) |
| | 茶野 徳宏 (医10期) | 吉川 浩平 (医16期) |
| | 北川 裕利 (医11期) | 津田 知子 (看1期) |
| | 松村 一弘 (医11期) | 山下 敬 (看5期) |
| ◇監事 | 来見 良誠 (医1期) | |
| | 向所 賢一 (医14期) | |

教授就任 ごあいさつ

滋賀医科大学 看護学科 基礎看護学講座(生化・栄養)

教授 佐々木 雅也 (医2期生)



このたび、平成29年6月1日付けで、看護学科基礎看護学講座(生化・栄養)の教授に就任いたしました。私は昭和57年に2期生として本学医学部医学科を卒業し、第2内科(現在の消化器・血液内科)に入局するとともに大学院に進学しました。初代教授の細田四郎先生、第2代教授の馬場忠雄先生(前滋賀医科大学学長)、第3代教授の藤山佳秀先生にご指導いただき、クローン病や潰瘍性大腸炎、吸収不良症候群などの患者さんの治療にあたる中で、栄養管理の基礎を学びました。また、栄養素と小腸機能との関わりについて基礎研究もおこないました。

ロンドン留学から帰国後の平成15年には、京滋では初めてとなる栄養サポートチーム(NST: nutrition support team)を立ち上げ、消化器内科以外の患者さんの栄養管理にも関わるようになりました。そのような経緯から、平成17年には附属病院に新設された栄養治療部の副部長となり、全国の国立大学で初めての栄養に関する専任医師となりました。NSTの活動を通じて様々な患者さんの栄養管理に関わる中で栄養代謝病態に関心を持ち、栄養治療部の管理栄養士の先生方とともに、間接熱量計を用いた臨床研究をおこないました。その成果は、国内外の学会で発表し、多くの論文として報告することも

できました。滋賀医科大学から、栄養代謝研究に関するエビデンスの発信が出来たと考えています。日本人の食事摂取基準2015の策定委員を務めたことから、糖尿病患者さんのエネルギー収支バランスに関するAMED研究にも参加することとなりました。

一方、日本静脈経腸栄養学会の理事(現在は副理事長)として、医師やメディカルスタッフへのセミナーの講師を務め、静脈経腸栄養ガイドライン第3版の作成にも参加しました。また、テキストブックの責任編集やNST専門療法士の問題集の監修も担当しました。今後は、これらの経験を生かして、滋賀医科大学看護学科の学生教育、大学院教育、さらには研究指導などに全力で取り組みたいと考えております。

今回、学長の塩田浩平先生、病院長の松末吉隆先生、看護学科長の桑田弘実先生のご配慮、ご支援を賜り、現職である附属病院栄養治療部部長も継続させていただくこととなりました。臨床栄養における第一線での活動に加えて、看護学生への栄養教育、医学生への栄養教育、さらには大学院教育と、これまで以上に教育への深い関わりを持ち、忙しい生活となりますが、母校である滋賀医科大学のために精一杯努めたいと思います。どうぞ、ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

[略歴]

- 1982年…滋賀医科大学医学部卒業
- 1986年…滋賀医科大学医学部大学院修了
彦根市立病院 内科医員
- 1987年… 同 内科医長
- 1990年…誠光会草津中央病院(現:草津総合病院)内科医長
- 1992年…滋賀医科大学 第2内科助手
- 1998年… 同 講師
- 2000~2001年…
文部科学省在外研究員として、Imperial College School of Medicine, Hammersmith Hospital, Department of Histopathology, University of Londonに留学
- 2005年…滋賀医科大学附属病院栄養治療部副部長
- 2007年…滋賀医科大学附属病院栄養治療部病院教授
- 2014年…滋賀医科大学附属病院栄養治療部部長
- 2017年…滋賀医科大学医学部看護学科基礎看護学講座教授

教授就任 ごあいさつ

滋賀医科大学 看護学科 基礎看護学講座

教授 相見 良成 (医5期生)



2016年5月1日付けで、基礎看護学講座の教授を拝命いたしました。私は、本学医学科の5期生で、卒後は本学第2外科で臨床研修を行いました。研修後は大学院に進学して『脳腸ホルモンの局在の検討』をテーマに、本学第2解剖学講座で助教授であった木村宏先生の下、組織化学法を学びました。木村先生は1989年に分子神経生物学研究センター(現:神経難病研究センター)を立ち上げられ、私も同時にセンターへ異動しました。

大学院ではNADPH-diaphoraseという酵素の感覚神経系での局在を検討し博士論文としました(1991年)。直後にこの酵素が一酸化窒素(NO)合成酵素であることが判明し、さらにNO研究が1998年のノーベル賞を取ったこともあって、この研究は大いに注目されました。このような経緯もあって研究が面白くなり、大学院修了後の留学を終えた後も、臨床へは戻らずに研究を続きました。

その後はしばらくセンターに在籍していましたが、2005年4月からは解剖学・生体機能形態学部門へ異動し、2007年4月からはさらに移籍した神経形態学部門で准教授として講義・実習に携わりました。その後は医学科生のみならず、本学看護学科生をはじめ、小学生から社会人にいたる広い対象への理科教育・解剖生理学教育に関わり、このような経験から、2016年5月より基礎看護学・形態生理学領域に転任しました。

以来およそ2年が経過しましたが、この2年間で看護教育に関して本当に多くのことを経験させていただきました。そのほとんどが自分にとって全く新しい経験であり、日々とても楽しく勉強させていただいています。また講義や実習だけでなく、学科運営やその他の仕事も数多く担当させていただき、そのいずれもが教員としての自分を育ててくれていると感じています。これからも自分の経験や能力が看護教育や滋賀医大の将来にお役に立てますように、日々努力を続けていきたいと思っています。

[略歴]

- 1985年3月…滋賀医科大学 医学部卒業
- 1985年6月…滋賀医科大学 外科学第2講座 研修医
- 1987年4月…滋賀医科大学 大学院医学研究科入学
- 1991年5月…滋賀医科大学 分子神経生物学研究センター 助手
- 1992年6月～1995年5月…カナダ・プリティッシュコロンビア大学留学
- 1999年4月…滋賀医科大学 分子神経科学研究センター 助手
- 2001年4月…滋賀医科大学 分子神経科学研究センター 講師(学内)
- 2005年4月…滋賀医科大学 解剖学講座 講師(学内)
- 2007年4月…滋賀医科大学 解剖学講座 准教授
- 2016年5月…滋賀医科大学 基礎看護学講座 教授

ずっと臨床

続けてます



国立成育医療研究センター
看護師 金子 節志(看2期)

こんにちは。看護学科2期生の金子です。

私が滋賀医科大学を卒業して、もう18年も経ってしまったとか…コワイですね。私は卒業後、関東圏で働き始め、2度ほど病院を変えましたが、現在も病棟勤務の看護師を続けています。

最初は救急病院の小児病棟で働きました。年間を通してほぼ予定入院がなく、喘息・肺炎などの緊急入院を扱う病棟でした。重症な患者さんは多くないものの、喘息患者が急増する台風シーズンはとにかく忙しく、仕事というより部活でシゴかれているような感覚でした。そんな中、繰り返し入院してくる子どもたくさんいて、入院する度にその子なりの成長を感じて嬉しかったものです。この感覚は私が現在でも小児看護に関わっている1番の理由だと思っています。

その後一旦病院を変え、総合病院の呼吸器内科で働きながらも、小児看護がやりたくて結局2年半で現在の小児・周産期の専門病院に移動することになります。ただ、今から思えばこの成人領域の経験は私にとって大変貴重なものでし

た。小児と違い、成人の患者さんは疾患に向き合う思いを言語化して伝えてくれることも多く、その苦しさや葛藤をダイレクトに感じる事ができました。また、患者さん自身、支えられているだけでなく誰かを支えなければいけない立場であるということもあります。実は、これらは小児看護ではなかなか経験できないもので小児を対象にしていると、気づかぬうちにプライバシーや患児自身の意思決定を軽視し、医療者のペースで行動しがちになります。小児病院でしか経験のない後輩に指導する際は、これらの点をしつこいくらいに何度も説明するようにしています。

現在は小児ICUで働き、かれこれ12年が経ちました。重症な子どもも多く、例えば体重2kg台の心臓手術後の赤ちゃん、生体肝移植後で拒絶反応が疑われる赤ちゃん、心筋炎で人工心肺を回している小学生、交通外傷で低体温療法中の中学生等々、想像し得るどんな病気やケガの子でも運ばれて来ます。そんな特殊な環境に「慣れる」とか「飽きる」なんてこともなく、日々あれこれ学びながら過ごしています。

大学時代の同級生や友人が、「大学院で勉強してる」「〇〇で講師をしてる」等と聞くと、少なからず焦る気持ちはありました。「臨床だけやっていいんだらうか?」「いつまで夜勤ができるんだらう?」しかし、先輩方のアドバイスや、私自身が臨床で学ぶこと・教えることの面白さを感じ、迷いながら現在の道を選んできました。

卒業生の皆さん、卒業後は仕事だけでなく、子育てや色々なことを経験されてきたと思います。そんなお話を皆でおしゃべりできたら楽しいだろうなあ。



在宅看護への道のりと その魅力



星 智子 (看2期)

卒業してから19年が経過しました。現在、訪問看護師として在宅看護に携わっています。今回の寄稿を受けて、学生時代の経験が現在取り組んでいる在宅看護にどのように影響してきたのかを振り返ってみようと思います。

在宅看護への興味は、臨地実習の時から始まりました。私たちの臨地実習は固定された6人のグループで、精神、老年、成人、小児、母性、地域のすべての実習を行いました。実習メンバーは個性豊かで、互いの課題について忌憚なく意見交換ができるいいチームでした。特に、水口町での地域看護学実習では、在宅療養中の高齢者を支えているシステムを知り、「地域は大家族だ!」と実感しました。そして、地元の高島市民病院の訪問看護実習では、病院にいる患者さんとは違う家主としての顔を知り、自宅にいるという強みを知りました。

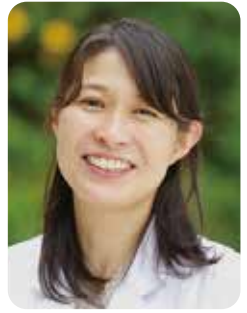


卒業後すぐは大学病院に就職し、リハビリテーション病院での臨床経験を経て、大学院に進学し、訪問看護ステーションで初めて訪問看護師として従事し、大学の看護基礎教育で在宅看護を担当する機会をいただきました。

在宅看護は、看護を提供する場が自宅をはじめとする生活の場であることが特徴で、生活の中での困りごとを一緒に考えていくため、自分自身の生活体験が糧になることがたくさんあります。もちろん健康管理を担える知識と技術も求められます。そして、療養者やその家族との関わりも長期間になることが多く、ともに時を刻むような関係になります。病院では発揮できなかった生活者としての一面を自宅を取り戻していく過程を共にすると、その頼もしい力強さに圧巻されます。

在学中、初代看護学科長の竹尾恵子先生の退官記念講演で、当時まだ看護系大学が少なく、卒業生がこれからの看護の大学教育を担う人材になるんだという話をしてくださり、自分もいつか看護基礎教育に携わることができる人材になりたいと考えるきっかけとなりました。在宅ケアの充実が求められる昨今、さらに在宅に力点をおいた教育も必要ではないかと感じております。これまでよい出会いに恵まれ、いろいろな種を蒔いていただいたと、皆様に感謝しております。今、冬の冷たい風を受けて自転車で訪問し、療養者さんにほっとさせてもらおうと同時に、いずれまた、この臨場感を看護基礎教育の場で伝えていくことができればなと思います。

養護教諭として…… まだまだ 勉強中です!



松永(栗栖)暢子
(看5期)



本学を卒業し16年たちます。卒業後、現在は奈良県の中学校・高等学校で養護教諭として勤務しています。現在の学校は、14年目になります。養護教諭という仕事は、職務の幅が広く、正直、子どもの頃、学生の頃に想像していた以上に、自分にとっては、『難しい』プレッシャーの多い仕事です。日々大事なく過ぎることのありがたさを感じています。

学校の中では、保健室は専門職として認識されるため医療的な眼がまず第一に必要です。『とっさの判断力と行動力!』。また、しんどさ(中高生は思春期ど真ん中、勉強、人間関係【家族友人】、進路などなど悩みがいっぱいです。)を訴える子どもたちの話し相手としてのコミュニケーションスキルや相談役としての役割。周囲の先生方と一緒に子どもたちを見守り、仕事を共有するコーディネーター的な役割も求められることがあります。そして、1年間さらにその先を見据えて様々な健康・安全に関わる行事等を立案、計画、実施することも大事な仕

事です。仕事が多岐にわたることから、幅広くアンテナを張り、日々の業務をする必要があります。

仕事を続けながら、この10数年の間に、結婚し、子どもが生まれました。(男子が3人います。)最近では、長男次男が野球少年で、家でもボールを投げて、元気いっぱいです。

家庭と仕事の両立は、やはりハードで、実は、子どもにも両親にも迷惑をかけている母親です…。仕事の都合がつかず、子どもの学校行事に行けなかったり、体調を崩したときも、自分が100%の看病ができないときもあり、他人の子どもを見て、自分の子どもを見られない自分にふがいなさを感じるときもあります。

仕事においても、子どもたち(生徒)や先生方との関わり・対応の中で、もっとできたのではと自分の役不足を感じることもあります。

仕事でも、家庭でも悩みは尽きません。それでも、毎日、朝、子どもを学校へ送り出し、職場に到着したときは、普通の日常が送れていることに、ほっとします。(ありがたいです。)家庭でも、仕事でも、難しいなと思うことが多々ありますが、「とりあえず、やってみる。」ことにしています。やってみて、案

外うまくいくこともあるし、やっぱり難しいことだと分かることもあります。子育ての中で教えられることもたくさんあります。親になり、子どもとの関係の中で悩まれる保護者の難しい立場、気持ち。少しずつですが、共感できるものもあります。親には、子どもにこんな風に育ってほしい、こんなことで困らないようにと、親としての理想があると実感します。親子関係、うまくいかなかったときに、子どもが健やかに学校へ通えない現実もあります。子どもの気持ち、親の気持ち両方に耳を傾けられる養護教諭になりたいです。

学校には、様々な先生方(先輩)がいます、カウンセラーもいます、また、この10数年間に他校の養護教諭の先生方とのつながりを築くこともできました。躓いたときには、いろんな方に相談し、より生徒たちが健やかに学校に通えるような見守りができるよう努めています。

あっという間に、仕事を始めて10年以上たち、それでも、日々自信が持てず、落ち込むこともあります。日々の仕事を誠実に続ける中で、少しでも生徒たちの助けになれるような仕事ができたらと思っています。前向きに、仕事に子育て(家庭)に向き合っていきたいです。

あっという間に…



滋賀医科大学附属病院 4D病棟 副看護師長
看護臨床助教 船富 奈々 (看5期)

大学1年生の冬に滋賀県で暮らし始めて19年。今年ついに、地元大阪での生活よりも滋賀での生活の方が長くなりました。はじめて滋賀医大に行こうと電車に乗り、琵琶湖が電車の右側に見えて湖西線の存在を知った高校生の私は、あれからずっと滋賀にいることになるとは想像していませんでした。そして、もともと看護師になリたかったわけでもない私が、なぜこんなにも長く滋賀医大で看護師として働いているのか…!?

実習に行ってみて「看護っておもしろいかも!?!」と思い、とにかく3年は働こうと思っていた新卒の頃。3年経っても、「心臓・呼吸器外科で働いていました!」と自信をもっては言えないなあと思ひ、「せめて5年は」とそのまましばらく働き続けていました。そのうちに、新人指導や、実習指導者など、教育に関わるが増えてきたのです。そしてその頃、当院で臨床教育看護師育成プランができました。臨床に居ながら教育に関わ

れる臨床教育看護師募集の話は、時期的に同期も徐々に減っていき、これからどうしようかと思っていた私に降ってきた良い機会でした。

あれから8年、今は臨床教育看護師として、部署での看護業務を行いながら、新人教育や部署の看護師の教育に携わっています。また、実習指導や看護学科の演習・講義への参加を通して看護学科の学生さんへも関わらせてもらっています。毎日のように泣いていた新人さんに後輩ができていろいろと教えてあげている姿、学内で勉強はしたけれどまだまだ漠然としていた「看護」が、実際患者さんを受け持つことで「こういうことか!」と学生さんの顔が変わる瞬間、学内演習で臨床でのエピソード紹介したときの学生さんのちょっとキラキラした目、それらを見られるのが今の私の楽しみです。

看護師というより“おかん”になりつつある今日この頃です。



病棟の後輩と

市川 瑞希 (看16期)



大学にて

今回、湖都通信投稿の機会をいただきましたので、現在通っている大学院とイギリスでの生活について、拙い内容ですが少し紹介させていただきます。

私は 滋賀医科大学を卒業後、附属病院3C病棟で勤務していました。3年という短い時間でしたが、 社会人としての勤務経験、病棟で学んだことは全て今に通じていると思っています。今でもお世話になった方々に感謝しています。病棟での日々はとても充実していましたが、学生時代から興味を持っていた海外と日本の医療制度の違いについて知識を深めたいと思い、ケンブリッジにある大学院のPublic Health courseへ進学を決めました。

クラスメイトは地元イギリス、アフリカやイラン、ベトナムなど 世界中から集まってきているので、様々な文化の違いや保健制度の仕組み、考え方の違いなどを学びました。カルチャーショックもありましたが、国外に出て初めてわかった日本の制度や考え方の一面もあり、生涯の大切な仲間に加え、たくさんを知り得ました。

また大学院の勉強と両立して(疲れきって机に向か

えないことも多いですが)ケンブリッジ大学附属病院の呼吸器病棟で勤務しています。イギリスの医療制度は日本と大きく異なり、看護の仕事も分業化が進んでいます。始めは戸惑うこともありましたが、それぞれの長所短所を学びつつ自分の看護に反映させています。現在は Healthcare assistantという立場で勤務していますがケアを始め、バイタルサイン測定、輸血や人工呼吸器を使用している患者の管理、様々なカニューラの挿入、褥瘡のケアなど多くのことを行います。医療用英語は一般の英語会話とは異なるので会話に苦戦することもしばしばありますが、患者さんとの関わりを大切に、楽しく仕事をしています。

現在は日本とイギリス間で減塩に対する若年層の意識、関心の違いをテーマに卒業論文を作成中です。学生時代の頃から大変お世話になっている看護学科の桑田教授、宮松教授のご協力を得て滋賀医科大学看護学生さんにもアンケートを実施し、イギリス看護学生の回答と比較して、より質の高い比較検討結果が得られるのではないかと期待しています。



病院スタッフと(仕事後のクリスマスパーティーの様子)



大学近郊風景(Cambridge)



田村 沙緒理 (看10期)

2017年5月、久しぶりに皆様にお目にかかり、大学生の時に戻ったように楽しい時間を過ごさせていただきました。10年ぶりに顔を合わせる方もいましたが、大学時代という密度の濃い時間を共有していた仲間との再会は、話題も尽きず、本当にあっという間の楽しいひと時でした。

同じ看護の道を志した仲間が、この10年の間に仕事の継続、転職、進学、結婚、出産、育児…と様々な人生の選択を繰り返し、目まぐるしく変わる生活の中で、皆さん一人ひとりが生き生きと輝いている姿を拝見し、とても刺激と元気をいただきました。

閉会後も名残惜しく感じ、LINEやFacebookで各々つながる姿、写真を撮る姿、次回の再会を約束する姿等を見ていると幹事の苦勞も報われ、このような機会に恵まれてよかったと感じました。

今回の同窓会開催にあたり、一緒に幹事をしてくれた堀(池田)さん、ご支援ご協力いただいた「湖医会」事務局の方々、本当にありがとうございました。そして滋賀医科大学および「湖医会」の更なる発展と、看護学科10期生の益々のご活躍をお祈りいたします。

卒後10年会



堀 麻紀 (看10期)

GW真っ只中の5月6日、京都市内のホテルにて看護学科10期生の卒後10年の同窓会が開かれました。実は同窓会を開くにあたり、なぜか幹事不明という事実が発覚。当時は育児休暇中で日程調整しやすかったため急遽幹事を引き受けた次第です。

当日は21名の出席でしたが、学生時代のことがフラッシュバックされとてもにぎやかな会となりました。久々の一人時間を満喫しようと子守りを依頼して頑張った遠方から参加してくれた友、抱っこ紐やベビーカー持参で子供を気遣いながら参加してくれた友、3人の母になり子育てに奮闘している友、キャリアアップしている友等10年絶てば住んでいるところも現在の環境も様々。級友との楽しい時間はあっという間でしたが、皆の近況を聞きとても刺激的かつ新鮮で皆からパワーをもらいました。

次回は5年後、今回会えなかった同期の皆さまに会えるのを楽しみにしています。

最後になりましたが、同窓会開催にあたり、ご支援ご協力いただいた「湖医会」事務局の方々に厚くお礼申し上げます。

看護学科



交流懇談会

第17回



学生のころを 思い出しました



門田 雅樹(看16期)

当日参加してまず驚いたのは全員が同じ方向にむいている。授業を受けるみたいだな、と思ってしまいました。人前で喋ることがあまり得意ではないので、それだけで緊張してしまいましたが、経験したことを話せばよいかと思い、自分が3回生のころどうだったか。働いてからどうかなど、を話させていただきました。交流会に参加していた3回生は自分の看護師や保健師像を持っており、すごくまじめな印象をもちました。何人かは病棟の実習にも来てくれた子もあり、実習の時の感想や看護師のことについて言ってくれたので、すごくうれしかったです。実習や国試、卒論とまだまだ学生の間にもたくさんやることはありますが、ぜひこのまじめな学年の子たちと一緒に仕事がしたいと思いました。貴重な時間をありがとうございました。

看護学科交流 懇談会に参加して



高谷 有理(看1期)

この度、交流懇談会に参加させていただきありがとうございました。在校生との交流はもちろん、先輩方や同期とも交流することができとても良い機会となりました。

私は現在滋賀県内の小学校で養護教諭として働いておりますが、この進路に進むまで何度も悩みました。この交流懇談会にも学生時代に2度参加させていただき、現在の職に進むヒントをいただきました。今回の交流懇談会でも学生の頃の私と同じように悩んでいる学生さんがおられました。この会だけで悩みが解決することはないと思いますが、卒業生の話が何か少しでも将来のヒントになっていればと思います。また、学生さんたちと話したことで、自分の学生時代や仕事を再度振り返ることができ、私自身も良い刺激となりました。そして、恥ずかしくない先輩でいようと気も引き締められました。

この交流懇談会は私にとっても本当に貴重な機会となりました。このような会を開催して下さった関係者の方々に御礼申し上げます。





看護学科 交流会担当 市山 遥 (看護学科4回生)

今回の交流懇談会では、看護師だけでなくさまざまな職種の卒業生の方々に参加していただき、大変貴重なお話を聞くことができました。就職のことや、国家試験についてのアドバイスだけでなく、今の学生生活をどう過ごすべきなのかについてもお話をしてくださり、残りの学生生活や進路について考える機会になりました。また、茶話会では、豊富なご経験をされている卒業生の方々に直接疑問や悩みを質問することができました。残り一年の学生生活となりますが、私は看護

の学びを深めつつも、自分の将来を自分なりにじっくり考え進めていきたいと思います。

今回交流会の準備をさせていただいて、今後も看護学科交流会を永く続けて行くためにも、同期や、先輩後輩との繋がりを大切にしていきたいと感じております。

最後になりましたが開催に先立ち多大なるご支援をいただいた卒業生の皆様、先生方、学生課の皆様、湖医会の皆様に心より御礼申し上げます。

第3回 湖医会 滋賀県支部会に参加して



滋賀医科大学看護学科 基礎看護学講座

助教 山下 敬(看5期)

昨年8月に行われました、湖医会の滋賀県支部会に参加してきました。今年で3回目になる滋賀県支部会ですが、今年は看護学科の学生さんも2人参加してくれました。今年度から会費を入学時に集める形に変更され、今後は現役の学生さんにも情報を発信していく必要があると考えていたところでしたので、良いきっかけになったのではないのでしょうか。懇親会でも学生ならではの意見を言ってくれていました。卒業生と現役学生との交流という意味でも、来年度以降もどんどん参加してほしいと思います。

さて、今回の滋賀県支部会では、山田副学長からの滋賀医大の教育についての現状についての報告の後、看護学科の現状について報告をさせていただきました。看護学科では今年の1年生が24期生にあたります。卒業生も1000人を超えました。例年、入学生は8割くらいが近畿地方出身なのですが、その中でも3割～5割程度を滋賀県出身の学生が占めています。卒業時には看護師・助産師・保健師・養護教諭などの資格を取得可能ですが、就職先としては8割が看護師として県内外

の大学病院や一般の病院に就職しています。中でも、滋賀医大附属病院で働いている看護師のうち、3割を滋賀医大卒業生が占めています。そんな在校生・卒業生の現状報告や、看護学科では在校生との交流懇談会等で就職について情報提供をしていることを紹介しました。医学科の卒業生の方からは、看護学科について分からないことも多かったが今回現状を初めて知った、という声も聞かれました。

卒業生の中から、少しずつ副看護師長や管理職に就いている方や、教員として教育や研究に携わる人も増えてきました。これからもっと上のポストへ就く人や、色々な方面で活躍する人が増えてくると思います。支部会には県内の病院長もたくさん出席しておられたので、人材確保や奨学金に関する情報提供など、看護学科についての良いアピールにつながるかと思います。まだまだ看護学科の滋賀県支部会への出席者数は少数ですが、今後の同窓生のため、在校生のため、集まれる会であればと思います。次回の皆さんの参加をお待ちしております。



横井 晴華 (看護学科3年)

先日はこのような会に参加させて頂いてありがとうございました。滋賀医科大学と滋賀県の医療を更に良くしていこうという先生方の熱い思い、そして、滋賀県への大きな愛が感じられるお話をたくさん拝聴させていただきました。学生の参加者が医学科も含め4名と少人数でしたが、学生も交えて大学の現状について本音でお話して頂くという機会は普段の学校生活の中ではなかなかありませんので、新鮮でした。滋賀県の医療を先導しておられる多くの先生方に囲まれて緊張していましたが、まるで同窓会に飛び入り参加させて頂いたような朗らかな雰囲気の中で会は進み、多くの先生方から優しくお声かけいただきとても嬉しかったです。ありがとうございました。

岡田 美沙 (看護学科3年)

先日はこのような会に参加させていただきありがとうございました。

滋賀医科大学と滋賀県に対する熱い思いや更なる向上のための考えを拝聴させていただきました。みなさん本当に滋賀県と滋賀医科大学を愛して大切にされているのだなと感じました。現在、滋賀県の医療を担っているすごい人たちがたくさんおられ、少し緊張もしていました。しかし、そのような方々みなさんが楽しそうに朗らかに話をしているところにご一緒させていただき、また先生方からお声をかけていただけて私自身も楽しく時間を過ごすことができました。最初はどのような会かわからず参加していましたが、様々なお話を聞かせていただくことができたので、良い機会となりました。ありがとうございました。

合気道部

主将 北川 由華 (医学科4回生)

平素よりお世話になっております。滋賀医科大学合気道部です。8月14日から16日にかけて、福岡県博多体育館にて、2017年度西医体・西医療体が行われました。1年生から6年生まで、合わせて18名参加いたしました。合気道部では二人又は三人が組になり、大会にて演武を披露します。後輩から直接先輩へお願いすることで組を決めております。しかし、大会の前の週まで、上回生は実習であったため、積極的に空き時間を見つけ、先輩後輩で協力し、稽古を行いました。西医体の練習では、先輩後輩が対一で組となるため、普段以上に先輩から後輩への指導がしっかりと行われ、各自の技の上達に繋がりました。その上、他の部員が客観的な目線から、演武のアドバイスをすることで、各々の技の癖を理解し、修正するよう努めました。その成果が大会にて十



分に発揮されたのではないかと思います。また大会後は福岡の観光ということで、太宰府へ向かいました。天候にも恵まれ、部員皆で多くの思い出を作ることができました。

来年度の西医体は富山県で行われる予定です。各自が昇段・昇級し、レベルアップして、また次の西医体を迎えられるよう、努力して参りたいと思います。これからも滋賀医科大学合気道部をよろしくお願いいたします。



空手道部

横井 晴華 (看護学科3年)

8月11日、8月12日、8月13日に、山口県立下関武道館にて西日本医科学生総合体育大会空手道部門、西日本コメディカル学生空手道大会が開催されました。

大会結果としては、男子新人戦でベスト16位に入賞いたしました。大会の他、試合に向けての練習や現地での団体行動を通して部の結束が固まったように思います。

今後も部員一同努力し、空手道部を盛り上げていくよう精進してまいります。OB・OGの皆様におかれましては、これからもご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。

女子バレーボール部

平林 歩 (医学科4回生)

私達女子バレーボール部は、今年度から医学科も看護学科も学部に関係なく出場できる大会を作ろうという趣旨のもと、滋賀医科大学で第1回西コメを開催させていただきました。

今回の西コメでは、リーグ戦を行ったあとにトーナメント戦を行いました。

リーグ戦の結果は、和歌山医科大学に25-16で勝利、岐阜大学に18-25で惜敗、奈良医科大学看護に12-25で惜敗しました。リーグ戦の結果を元に行われたトーナメント戦では、近畿大学に1-2(23-25、25-22、9-15)で惜敗、和歌山医科大学に2-1(14-25、25-16、15-11)で勝利しました。

チームが一つになり、最後まで粘りあるバレーをできたと思います。応援に駆けつけてくださった皆様方、ありがとうございました。今後、チームがさらなる活躍を出来るよう、日々精進したいと思います。



女子テニス部

前主将 田埜 郁実(医学科4回生)

本年度は、山口県において西日本医科学学生総合体育大会テニス部門(以下、西医体)が行われ、テニス部医学科男子は1回戦敗退、医学科女子は1回戦敗退という結果となりました。また滋賀医科大学の主管により西日本コメディカルテニス大会(以下、西コメ)が行われ、看護学科女子は第3位となりました。

西医体、西コメは滋賀医科大テニス部にとって最大の大会であり、半年間かけて準備を進めてきました。昨年度とは選手の顔ぶれもがらりと変わり、人数は少ないながらも個性の光る新しい雰囲気でした。今のチームには何が足りないか、必要な練習はどんなものか、などを部員で意見を出し合えたおかげで納得のいく練習にすることができました。

今大会は男女とも特に人数が少ない中での試合進行でした。1人1人が自分の役割をきっちりと

認識して常に総動員で動く必要があり大変ではありましたが、大会を経てチームの結束力を改めて感じましたし皆が一段と成長できたのではないかと思います。結果としては悔しい思いも多く残ります。しかし、それを飛躍力にして次に生かしていく地盤ができつつあるのではないかと感じています。私自身、一年間主将として部活に関わらせていただき非常に良い経験や思い出を得ることができました。これからも後輩達の健闘を祈り、支えていきたいと思っています。



水泳部

主将 古田 諒(医学科4回生)

水泳部門は、西医体は沖縄で、続く西コメは山口で大会を行いました。部員一同、プレーヤーメッセージを含め、この大会のために1年間練習してきたといっても過言ではありません。また、我々水泳部は2年前の大阪開催の西医体で総合優勝も果たしており、その優勝を経験している部員は少なくはなりませんが、それでも少し王者のプライドをもって挑んだ部員もいたかと思えますし、主将である自分も他の大学には負けるものかと思ひ挑みました。しかし、結果としては西医体、西コメともに個人メダル1枚のみに終わり、全体としても満足のいくタイムを出す事ができた部員は多くはなかったように思います。沖縄で屋外という過酷な環境下の中ではありましたが、やはり上位層は環境をもろともせず、結果を出してきました。近年、西医体、西コメともにレベルが格段に上がってきており、今まで通りの取り組みではなかなか太刀打ちできなくなってしまし

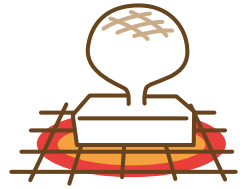
た。もう一度黄金時代を取り戻すためにも、これからを担う部員にはぜひ期待したいですし、現役を引退にはなりますが、私自身も部に貢献できるよう、取り組んでいきたいと考えております。

これからも水泳部にご指導、ご声援のほど、よろしくお願い申し上げます。





餅つき大会を共催



平成29年12月15日(金)17:30～福利棟の食堂ホールで、生協との共催で餅つき大会を開催しました。相見良成湖医会副会長のあいさつではじまり、学生、教員が交代で餅をつき、150余名の参加者にはつきたてのもちを振舞いました。マレーシアからの研究生の参加もあって賑やかな餅つきになりました。今回の企画に併せ、湖医会から臼と杵を新調し寄贈しました。



2017年度「湖医会」総会 議事録

日 時／平成29年10月28日(土) 14:30~16:20

場 所／看護学科棟第4講義室

議題

1. 2016年度事業報告及び決算について

原案(資料1-1、1-2)のとおり承認された。

2. 2017年度事業計画及び予算について

事業計画については原案(資料2-1)のとおり承認された。

予算については、原案(資料2-2)を一部修正のうえ承認された。

3. 会則の一部改正について

原案(資料3)のとおり承認された。

4. 役員の変更について

選挙管理委員長から、公示の結果立候補者はなかった旨の報告があった。幹事会から提出のあった候補者名簿(資料4-1)のとおり、また幹事については資料4-2のとおり新役員が承認された。

(任期は3年 2017.11.1~2020.10.31)

新役員

会 長／永田 啓

副会長／葛本尚慶・相見良成・金子 均

監 事／来見良誠・向所賢一

幹 事／全て再任

永田次期会長から、あいさつがあり、これからの湖医会の組織(方向性)(資料4-3)についての説明があった。

5. その他

幹事会の報告

①功労者表彰規程の制定について ②名誉会長の称号授与について ③顧問の委嘱について

※ 各資料は「湖医会」HPを参照

会費納入のお願い

看護学科は終身会費制(2014年から)

終身会費 20,000円!

これまでに20,000円以上を納入されている方は、終身会員となっています。20,000円に満たない方はその差額を納入された時点で終身会員となります。終身会員でないと、広報誌や卒後5年・10年・20年の同期会の案内などをお届けできないことになります。詳しくは、湖医会事務局までお問い合わせください。

名前・住所・勤務先・メールアドレス等が変更になった場合は、メールまたはファクスで事務局までご連絡ください。



編集後記

お忙しいなか、記事の執筆をしてくださいました恩師・卒業生の皆様に心より感謝申し上げます。

毎号、様々な場所で活躍されている卒業生に刺激を受けます。私自身、卒後15年目の年を迎え、これまでを振り返り、今後の看護師人生をどう生きようか、あらためて考える事が多くなっている今日この頃です。学生時代、何かを考える時は、よく湖岸で過ごしたなあと懐かしく思い出されます。今も変わらず、琵琶湖にはきっと大きな癒しをもらえそうな気がします。

今後とも卒業生の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。ご意見・ご要望等あればお寄せください。

山地 亜希(看6期)